

衣料害虫の食害習性に関する研究

一幼虫の口器と繊維の加害状況について一

奈良女大家政 辻井康子 大阪成蹊女短大 ○吉村祥子

目的 最近羊毛カーペット、毛皮製品などに衣料害虫による被害が増加している。また生活科学センターなどに持ち込まれる毛製品の損傷が虫害による破損か、それ以外の原因で生じたものか区別のつかぬことも多い。そこで代表的な衣料害虫であるヒメマルカツオブシムシ (*Anthrenus verbasci* (L.)) イガ (*Tinea pellionella* (L.)) の幼虫の口器とかみ切られた繊維の観察から虫害の特徴を明らかにすることを目的とした。

方法 イガ及びヒメマルカツオブシムシの幼虫の口器と、これら害虫によってかみ切られた毛繊維の食害の痕を走査型電子顕微鏡によって観察した。

結果 イガ、ヒメマルカツオブシムシの幼虫は発達した大腮 (mandible) で繊維をかみ切るが、この食害痕を観察することによって、虫害を実証することができた。イガの場合、大腮は左右相称で4角形に近く、先端に5個の歯がみられ黒褐色で硬い。3個は大きくて鏡く残り2個はやや小さい。この歯でかみ切った繊維の食害痕は鋸歯状になったり、さざくれがみられる。さらにイガは幼虫自身が吐糸するので、食害痕には幼虫が吐き出した細い繊維の付着がみられた。ヒメマルカツオブシムシの大腮はこれも左右相称であるがイガにみられるような歯はなく丸味をもった三角錐のようであり、かみ口はくまび型の印り込みがみられることが多い。